

# 福岡県環境教育学会

Fukuoka Society of Environmental Education

## ニュースレター

Vol. 70 2023.4.15

- 1 継続的自然体験活動紹介「川づくりは 人づくり！」直方川づくり交流会 . . . . . 1
- 2 第 44 回福岡地区例会報告 . . . . . 3
- 3 「食品ロス削減推進サポーター制度」をご存知ですか? . . . . . 4
- 4 第 26 回年会のご案内 . . . . . 5
- 5 第 45 回例会のご案内 . . . . . 6

### <継続的自然体験活動>

## 川づくりは 人づくり！

～ふるさとの自然を次世代に～

直方川づくり交流会 高橋幸子

飯塚方面からの「遠賀川(嘉麻川)」は、直方市で田川方面からの「彦山川」と合流して中間・北九州を経て響灘にそそぐ「遠賀川」となりますが、その合流点(直方市溝堀 1 丁目)の導流堤にあるのが、2004 年にできた国土交通省の「遠賀川地域防災施設(遠賀川水辺館)」です。遠賀川の洪水被害の歴史を伝え、災害(洪水)から身を守る治水の大切さや、豊かな河川環境の保全、河川愛護活動の啓発を目的とした施設です。災害時には、遠隔監視装置により河川水位の状況や迅速な防災活動を行います。平常時は防災や河川環境等の学習会やイベントなど、子どもたちと楽しみながら川について学ぶことができる施設です。

今回は、その「遠賀川水辺館」を拠点として、1996 年から環境教育活動をしている「直方川づくり交流会」を訪ねました。以下は同会のお世話役をなさっている高橋幸子先生のお話です。



遠賀川地域防災施設(遠賀川水辺館)

### ■遠賀川水辺館の設立と市民グループ「直方川づくり交流会」

直方市の中央を流れる遠賀川は、石炭輸送の水路・水源・農業や工業用水・スポーツやレクリエーションの場など古来から市民にとって「いのちの川」とも言える重要な役割を果たしてきました。福智山とともに「山紫水明の直方」として市外の方からも高い評価を受けています。

近年「多自然型工法による川づくり」が重要視される中で、もっと市民に親しまれる遠賀川をどう創っていくか、この遠賀川をどのような姿で子孫に残していくかが大きな課題になってきています。

1996年6月に発足した「直方川づくり交流会」は、このような趣旨を踏まえ遠賀川の将来像試案をつくり、行政などに提案して市民と行政が一緒になって考えていこうとするものです。

発足のきっかけは直方市を流れる遠賀川の将来の川づくりを直方市民自ら考えて提案して頂きたいという建設省遠賀川工事事務所からの働きかけにより、野草料理研究家である野見山ミチ子氏を座長とする女性11名、男性11名のメンバーが集まったものです。交流会には建設省をはじめ福岡県直方土木事務所や直方市の職員の方々もメンバーとして参加され、これからの遠賀川について熱心な意見交換を行いました。

また、交流会では広く市民の方々に輪を広げ直方を中心として遠賀川流域全体のことを共に考えて行政機関へ提案していく会でありたいと考えています。この趣旨に沿って次のような目標を掲げています。

①直方市の中心を流れる遠賀川について、市民自らの手で望ましい将来像を考える

②遠賀川が地域住民に親しまれ、愛される川になるよう今後の川づくりについて関係行政機関に積極的に提案していく

③会員相互および行政機関との意見交換のための交流会を開催し、今後の川づくりについて市民レベルの合意形成を図ることにより、行政への住民参加を促す。

さらに、次の3つの約束7つのルールに沿って活動を行っていきます。

1 自由な発言

- ・参加者の見解は所属団体の公的見解としない
- ・特定の個人・団体のつるし上げを行わない

2 徹底した議論

- ・議論はフェアプレイの精神で行う
- ・議論を進めるにあたっては実証的なデータを尊重する

3 合意の形成

- ・問題の所在を明確にした上で合意形成をめざす
- ・係争中の問題は客観的な立場で事例として扱う
- ・プログラム作りは、長期的・短期的と区分し実現可能な提言を目指す



めだかの学校・遠賀川生き物調査隊

以上のような趣意で、1996年から25年以上活動してきましたが、活動8年目の2004年に現在の拠点「遠賀川水辺館」の建物とビオトープ「春の小川」ができました。「遠賀川水辺館」には魚の展示や各種遠賀川に関する資料もそろえましたが、何よりも特徴としているのは、ここでの体験型環境教育です。①川の生き物 ②川をめぐる野鳥 ③川を描くという3つの分野で、様々な活動をしています。どの分野にもメンバーに専門家がそろっており、質の高い活動をしています。

現在の活動としては、

1 年間を通した活動

- ・めだかの学校(毎月の子供対象の体験活動)
- ・春の小川まつり(河川敷のごみ拾い)

2 恒例の四季のイベント

- ・天まで届け(凧あげ)
- ・菜の花で春を染めよう
- ・大きなキャンバスにチューリップを描こう
- ・花のプレゼント



- ・サマースクール(1泊2日の体験活動)
- ・冬の野鳥を見つけよう

その他、小中学校や来館者への生き物調査や野鳥観察などの環境学習だけでなく、学校や自治公民館への出前授業・様々なグループへの防災学習も行っています。

高橋先生は、このような話の中で

「めだかの学校」と名付けたのは、誰が生徒で先生か♪と言われるように、大人が教えるだけでなく、子ども自身の気づきが生まれることが狙いです。

この2月に月一回定例会の300回記念をしましたが、国土交通省をはじめ、直方市市長や教育長も来て下さり、全国に散らばった子どもたちが集まって来て、遠賀川水辺館で学んだことや楽しかったことをそれぞれに話してくれました。中には東京大学の特任助教として活躍している人もいます。

この体験活動を通して「川づくりは人づくり」であることを、つくづく感じます。子どもたちがこのふるさとで体験したり感動したりすることは、人間を豊かな気持ちにしてくれます。これをぜひ次世代にも伝えていただきたいし、だからこそ継続して環境教育をし続けていくということが大切であると思います。

また、国土交通省と二人三脚と言えるくらい連携しながら活動していますが、当初から民も官も同じテーブルで、川づくりについて話し合いができたことが素晴らしい。そうして子供や市民が川に関心を持つことは防災にもなるのです。

子どもたちとの活動、子どもたちが自ら気づきながら育っていくことが本当に楽しくてたまらない！といった充実感でいっぱいの高橋先生でした。

報告者 森本美鈴



サマースクール1泊2日の自然体験学習

## 【第44回福岡地区例会報告】

### 「持続可能・循環型社会の基盤 3Rの最新情報を学ぶ」

会員 石原 忍

2022年11月13日(日)、第44回例会(福岡地区担当)を福岡市臨海3Rステーション(福岡市東区箱崎ふ頭4-13-42)で行いました。建物は、ゴミ処理工場であるクリーンパーク・臨界に隣接しており、福岡市における様々な3R活動についての取り組みについて啓発を受けることができます。

今回の研修では、まず、ゴミ処理工場の施設見学を行い、その後、3Rステーション内研修室で、現在の福岡市の環境への取り組みや、施設内での3R活動についての報告を受けました。

環境浄化活動の最も基本部分を担うゴミ処理事業ですが、実際の動きについて知ることは少なく、広範な処理施設の概要を見学することは、良質な社会勉強となりました。

また、今回の研修で、とりわけ良い成果であったと思ったことは、教育学部の学生も含め3Rの職員の方と共に、これからの環境活動の在り方を、世代を超えて語りあったことで、環境教育のこれから



福岡市臨海3Rステーション

の展望や、若い世代への文化継承の手がかりが見えてきたような気になりました。

SDGs に象徴される、人間・自然環境への配慮は、世間にその言葉が広く流布されつつありますが、実際の活動成果ということでは、まだまだ途上であり、より多くの人々の実践参加が待たれるところです。今回の研修が、そこに踏み出していく第一歩となる可能性を秘めていることを実感いたしました。(参加人数 8 名)

以下は、参加学生の感想です。

#### ★福岡市臨海 3R ステーションを見学して★

中村学園大学教育学部 4 年 徳永萌花

今回の研修で、循環型社会や環境について改めて学び、考えることが出来ました。

ごみ処理工場の見学では、ごみ処理の方法や仕組みを、楽しく学ぶことが出来ました。特に、ごみ処理で使われる熱を電気に変えたり、汚れた空気を綺麗にして排出したり等の、環境を守るための工夫をされていることに感銘を受けました。また、私たち一人ひとりが、ごみを減らすことで、工場を建設したり稼働させたり、維持したりすることへのコストを減らせると思いました。

3R ステーションの見学では、使わなくなった衣服や家具等の再利用やものの修理、制作活動等、3R のための活動をされているということを知り、これから活用していきたいと思いました。



環境をよりよくするためには、まずはこのような取り組みを多くの人に知ってもらう事が大切だと考えます。

私は、今年の 4 月から教壇に立ちますが、私自身が環境についてさらに学び、多くの子供達に伝え、共に実践していきたいと思いました。ありがとうございました。



#### 【情報】

「食品ロス削減推進サポーター制度」をご存知ですか？

会員 森本美鈴

「SDGs 12 つくる責任 つかう責任」の 12.3 をご存知ですか？

それには、2030 年までに世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させるとあります。

本来食べられるのに捨てられてしまう食品を「食品ロス」と言いますが、その量は日本では年間 522 万トン、1 人当たりの食品ロス量は 1 年で約 41kg、1 人当たりが毎日お茶碗一杯分のご飯を捨てているのと近い量です。日本の食料自給率が 37%であること、処理や食糧輸入が及ぼす地球温暖化への影響を考えると、食品ロス削減は事業者、家庭ともに喫緊の課題でもあります。

国では 2019 年に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行され、消費者庁では、2022 年「食品ロス削減推進サポーター」制度を創設しました。

地域において食品ロス削減の啓発・取組を行っていただくために、食や環境問題に一定の知見を有した団体の会員向けに、食品ロス削減推進サポーター募集をしています。サポーターの認定には、所属団体を通しての応募、及び消費者庁のオンライン講座の受講、簡易試験の受験後、小論文作成が必要で、合格後、消費者庁に登録されます。

サポーター育成のための教材となる「食品ロス削減ガイドブック」もあり、食品ロス削減に関する情報も供されます。食品ロス削減推進サポーター向けページ は以下です。

<https://www.no-foodloss.caa.go.jp/supporter>

みなさま 食品ロス削減推進サポーターとして活動しませんか。

### 【福岡県環境教育学会第 26 回年会のご案内】

高校生・市民団体・自治体の成果発表や講演会などがありますよ。  
～ これからの環境時代の情報がここに集結。聴きましょう！つながりましょう！～

## テーマ 「森・里・川・海をつなげ、 地域循環共生圏の実践と SDGs の達成を目指そう」

- 開催期日：2023年(令和5年)8月5日(土) 9:00～16:30
- 開催場所：遠賀川水辺館(福岡県直方市溝堀1丁目1-1) 2階
- 内 容：午前 開会行事、一般発表等  
午後 ポスター発表、講演会、パネルディスカッション等
- 参加費：無料(発表要旨代として会員・学生 500円 非会員 1000円)
- 日 程：発表申込:6月24日/要旨原稿:7月8日/参加登録:7月15日
- 問合せ先：松田 寛(実行委員会事務局長兼庶務担当)matuda@leo.bbiiq.jp

第26回年会実行委員長(筑豊地区担当)依田浩敏

2018年に閣議決定された第5次環境基本計画には、国全体で持続可能な社会を構築するため「地域循環共生圏」を創造していく、と書かれています。「地域循環共生圏」は、自然と人との共生、地域資源の供給者と需要者という観点からの人と人との共生、都市や農山村漁村も含めた地域同士が交流を深め相互に支え合って共生することを目指します。

森里川海は、自然的つながりとして、「地域循環共生圏」を形成する上で重要な役割を果たします。しかし、こうした自然からの恵みが私たちの安全で豊かな暮らしを支えている一方で、行き過ぎた開発や利用・管理の不足などによって、そのつながりが絶たれたり、それぞれの質が下がったりしています。また、気候変動や人口減少・高齢化といった問題が森里川海とそのつながりの荒廃に拍車をかけ、私たちの暮らしにも影響が現れ始めています。

今回の年会在開催される筑豊地区には、遠賀川が流れています。遠賀川流域は、福岡県北部の筑豊地方における社会、経済、文化の基盤をなすとともに、古くから続く稲作文化や石炭産業によって、わが国の近代化や戦後復興に大きな役割を果たすなど、人々の生活や文化、経済と深く結びついてきました。また、国定公園や県立自然公園に指定され、四季の景に恵まれた溪谷など豊かな自然環境を有し、人々の憩いの場や身近な自然環境として親しまれています。

今回のテーマを『森里川海をつなげ、地域循環共生圏の実践と SDGsの達成をめざそう』とし、様々な主体が連携しながら、環境保全活動、環境教育を推進していくためのきっかけとなる年会になることを目標にします。

【第45回例会のご案内】

カヌーに乗って頓田貯水池をめぐり、

頓田貯水池の役割と自然について理解を深めよう！

- 1 開催日時: 2023年5月21日(日)午後1時～4時
- 2 開催場所: 玄海青年の家(集合:ロビー)及び 頓田貯水池  
北九州市若松区大字竹並 126-2 TEL 093-741-2801
- 3 対象・人数: 本学会会員および一般 10人程度
- 4 参加費: 500円
- 5 持ち物: 筆記用具、タオル、飲み物、着替え(カヌーで濡れた場合)
- 6 申込締切: 2023年5月14日(日)
- 7 申込・問合せ先: 第45回例会事務局 三宅博之  
E-mail h-miyake@kitakyu-u.ac.jp 携帯 080-2771-5229
- 8 アクセス: JR 筑豊線二島駅から市営バス響灘緑地(グリーンパーク)行き乗車(玄海青年の家降車)12時25分発のみ(12時35分に到着)。自家用車は駐車場があります。



複数人数であれば、JR 二島駅からタクシー(1400円程度)利用、三宅に事前に伝えていただければ、二島駅まで迎えにあがります。

事務局からのお知らせ

1)学会運営についてのご意見をお寄せ下さい。

運営委員会は年7回程度開かれています。ご意見等ございましたら、事務局総務までお知らせ下さい。

2)環境教育についての情報をお知らせ下さい。

ニュースレターは年3回程度発行されます。会員にお知らせしたい情報がありましたら、事務局総務まで記事をお送り下さい。

3)会費納入のお願い。

年会費を未納の方は郵便振替により納入ください。

個人会員:2,000円

学生会員:1,000円

法人会員:15,000円

郵便振替口座番号 01720-3-76825

口座名: 福岡県環境教育学会

4)会員を増やしましょう。

入会手続は、まず入会申込書(学会ホームページを参照)を事務局・会計宛に、郵送またはe-mailでお送り下さい。入会申込と同時に会費を納入下さい。会費納入確認と運営委員会承認の後、入会手続完了のご連絡を致します。お問い合わせは事務局会計まで。

福岡県環境教育学会

<http://www.fuku-kan-kyouiku.org>  
E-mail: jimukyoku@fuku-kan-kyouiku.org

事務局

事務局長・総務

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1  
福岡教育大学 坂本憲明研究室気付  
Tel :0940-35-1359

E-mail: jimukyoku@fuku-kan-kyouiku.org

E-mail: sakamoto@fukuoka-edu.ac.jp

会計(会費振込など)

金藤芳就 Tel:090-4779-3147

E-mail: jimukyoku@fuku-kan-kyouiku.org

庶務

太田泰弘、森本美鈴、濱村研吾、石原 忍

E-mail: jimukyoku@fuku-kan-kyouiku.org

※住所変更の場合は必ずお知らせください。